



平成 26 年 4 月 1 日

巻 頭 特 集

曹洞宗東北管区教化センター

広 報

第62号

次代の布教を考える
〜 葬儀その1 〜



SOTO ZEN

曹洞宗東北管区教化センター

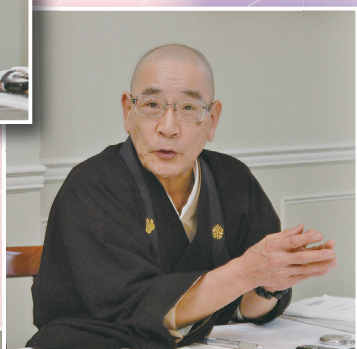
〒981-3117 仙台市泉区市名坂字檜町169-4

TEL 022-218-1381 FAX 022-218-1382

<http://soto-tohoku.net/> E-mail : kyouka@seagreen.ocn.ne.jp

特集 座談会

次代の布教を考える 「葬儀その1」



曹洞宗の葬儀法は、今も昔も変わってはいない。しかしその形態は、会館葬・家族葬・炉前での直葬・無宗教葬儀など、大きく変化してきている。

その背景には、死は地域のみならず、甲うものという気持ちも薄れ、きわめて個人的なこととして捉えられるようになってしまったことが要因であると思われる。

この特集では、東北管内八宗務所から八名集まって戴き、二〇年前と現在の葬儀の変化、更には二〇年後の葬儀を展望して、意見交換を行った。

本号では、それぞれの地域における葬儀の変容、次号では二〇年後を見据えて、今なすべき方向性を模索する。

■出席者

福島県	長楽寺	中野	重孝
宮城県	瀧澤寺	庄司	行正
岩手県	地藏院	大場	浩俊
青森県	報效寺	鳥谷部	俊悦
山形第一	法昌院	深瀬	俊路
山形第二	泉高院	山岸	俊道
山形第三	見龍寺	池田	好斉
秋田県	宝昌寺	新川	泰道
教化センター統監	高橋	哲秋	

(敬称略)

【中野】



二〇年前は福島市内でも葬儀社は二社ぐらいであった。当時は自宅葬がほとんどであり、寺院葬でも露地安置の南面で行っていた。一五、六年前頃より葬儀業者が急増して葬儀会館も増え、現在は会館葬がほとんどである。

規模も二〇年前は地域や親戚など参列者も多く一日かがりの葬儀であったが、都市化により縮小化され、家族や兄弟だけの葬儀（家族葬）が増えてきた。

それに伴い、三導師が普通であったが、三人の僧での葬儀も減り、現在はほとんど僧侶一人で行っている。

戒名については従来通り、寺への貢献度を加味しつつ、各家の先祖の戒名にならって付与している。しかし、他宗の寺院では、位階や文字数によって戒名料を定めている。宗門もこれにならいつつあるが、このことは非常に問題である。

【鳥谷部】

青森県は大きく青森・弘前・八戸・むつに分けられ、当寺は八戸地域である。八戸市だけであるが、通夜には

【深瀬】



会葬者は訪問しないことが昔から習わしとなっており、現在も続いている。

二〇年前は老人ホームに入所させることにも抵抗があるような雰囲気があり、自宅死が多かった。現在は病院死がほとんどであり、自宅死が珍しくなっている。

現在、都市部では葬儀会館も増えてきているが、郡部では二〇年前と変わらずに公民館や自宅での葬儀が半分、寺院での葬儀が半分である。



変化してきたのは、葬儀法や菩提寺をもたない共同墓などではなく、喪主や施主の意識であり、老健施設や介護保険適用などの社会変化が背景にある。

山形県の場合、企業が少ないので、跡取りが地元にはいない檀家が多い。その跡取りが菩提寺とどうつながりをつけていくのかが問題である。例えば、護持会費納入者が亡くなった場合、後継者がその妻なのか地元に住居しない息子さんなのか家族内でもわかっていない現状がある。

近年、僧侶の兼職率が減り、社会の経済価値観とかけ離れた僧が少なくない。特に若い僧侶に顕著である。檀信徒の葬儀が地味になる傾向に対し、山門法要は派手になつてきている。地味な檀信徒法要を「よろしくない」ときめつけるのは、僧侶側の感覚がズレているのではないかと思える。

戒名についても僧侶が位階そのものをどう捉え、どう説明しているかが問題にされるべきである。

山形市での寺院葬は、駐車場などの問題で、家族のみなどの少人数の場合に限られている。従ってほとんどが会館葬にならざるを得ない。

二〇年前、豪雪地帯の出稼ぎ家庭の場合、準備も出来ず、やむなく会館葬が行われはじめた。都市化現象による会館葬とは事情が異なることを強調したい。

平成の大合併により、都市部郡部の境界が薄れたこと、職場での情報交換等により、他の地域の葬儀情報も知ることが出来るようになった結果、菩提寺に対する疑問を持つ人も増えてきた。

寺院の側が「当寺では昔からこのようにしている」として檀信徒に十分に理解してもらえない努力をしないことが問題である。出来るだけ「言葉」できちんと説明

することを心がけるべきであろう。地域によっては、離檀する場合に問題がおこることがあげられる。



「山岸」

二〇年前は安居中であり、一二年三年前から住職となった。当初、南陽市には葬祭ホールはなく、五人組が機能し、葬儀業者は補佐的役割であった。

七、八年前に大手の葬儀社が進出し、葬祭ホールが建って、会館葬が増加し、寺院葬や自宅葬が少なくなってきた。

自宅死から病院死が多くなり、遺体搬送を葬祭業者が行う事によって、現在、都市部では業者主導となっており九割が葬祭ホールでの葬儀である。(業者が行う遺体搬送は貨物自動車運送業務法を根拠とするが、料金の発生しない遺族などの個人が行う搬送には適用外であることが、一般には理解されていないという事情もある。)

郡部ではかろうじて五人組が機能しており、「地域で暮らしてきた人は、地域で送る」気構えは残っているが、過疎化と高齢化のために、業者に頼る傾向になってきている。



「池田」

二〇年前は海外にいたが、そこでは葬儀の費用は二万〜五万円、役員で一〇万円程度であった。日本に戻って葬儀布施は破格だと感じた。

庄内では以前は寺や自宅での葬儀であったが、現在はある地域の一カ寺だけが寺院葬を維持している。

情報量の多い地域から次第に都市化は進み、前述の一カ寺を除き一〇〇%会館葬となった。他の寺院と違った葬儀は出来にくいという風潮がある。

庄内の特色としてあげられるのは梅花講が地域の人間関係を維持している点である。梅花講は近所の三〇歳から八〇歳代のご婦人が入っている。普段に集まって葬儀の際の念仏(ご詠歌)練習をしているので、地域の絆を深めることに寄与しているが、近年は減少傾向にある。

以前の通夜は、僧侶が行かずに、梅花講の念仏と隣組による通夜火葬であった。最近では、念仏が少なくなり、独僧での通夜が増えてきた。更に会館葬によって、夜通しで火葬をしていた葬式組(契約講・隣組)が衰退し、葬儀社の手伝い

として、花を会葬者に配るなどの役回りになってきた。

葬式組が衰退したから業者が肩代わりするようになったか、業者が取り仕切るようになったから葬式組が無くなったのかは、どちらとも云えないであろう。

以前は、僧侶五〜六人での三導師であったが、次第に三人の一導師となり、最近では独僧もある。葬儀布施が施主の負担となつていて僧侶の数も減つてきたのである。また近年は、念仏講や契約講が減つてきていることにも原因があるが、会葬者の数も少なく、家族葬も出てきている。



「庄司」

二〇年前はまだ若く、葬儀の実態もよくわからなかったが、一〇年前頃より葬儀会館が増えてきて、車をちよつと走らせればどこにも葬儀会館があるほどである。現在も増加傾向である。

仙台では、病院で亡くなって自宅へは戻らないケースもあり、葬儀会館に直行し、通夜・葬儀が会館で行われている。そんな中で、当寺は先々住の代から「業者の葬儀会館では葬儀をし

ない」方針を貫いており、そのために先代は伽藍の整備をし、本堂に椅子を置いたり、通夜ホールを造り、駐車場の整備も行ってきた。檀信徒にも機会あることに「お寺で葬儀をすること」を発信してきた。私もその方針を貫いており、

最近では檀信徒の理解も得られるようになった。むしろ進んでお寺で葬儀をしたいという希望者が増えてきており、枕経・通夜も、当寺での葬儀となっている。枕経を含めた寺院葬をしているのは、おそらく仙台で当寺だけであろうと思う。

会館葬などにみられる葬儀社主導の傾向は、喪主と葬儀と墓地が一連化されていないと感じている。例えば、近年、〇〇会館で葬儀をし、僧侶に読経して戴いたが檀家になる話はなかった。そちらの檀家にさせてほしいと云う話や、檀家にはなりたくないが墓地がほしいという話などが持ち込まれる。

相談があれば、何度かお寺に来て戴きながら、意思の疎通を図り、相手に理解戴けるような良い方向に導くようにしている。

会館で葬儀、則ち戒名授与をしておきながら、檀家になって戴く気持ちも、墓地を提供する意志もない僧侶がいることは問題であると感じている。

「天場」

岩手は広いので、住職地である岩手県南、一関市の気仙沼市に近い過疎地に限らせて戴く。過疎の現状の例として、二〇年前の小学生数は二五〇人程度だったのが、現



在一〇〇人ほどであり、親の数も減少傾向である。

平成二年に住職となったが、そのころは土葬もあった。葬祭会館もなかった。告別式を喪主家で行う自宅葬はなかったが、墓地のそばにある引導場かお寺での葬儀が行われていた。

最近では五kmほど離れた町場に行くことも通夜ホール（葬祭会館とは呼ばれない）ができた。自宅で通夜が出来ない事情がある場合はホールを使うが、葬儀（告別式）はお寺か引導場で行っている。

五年前に教区内寺院三八カ寺のアンケートでは、九五%以上が自宅あるいはお寺で行っているとの結果を得ている。アンケート実施の理由は、二〇〇三〇km離れた一関中心部に大手葬祭業者の会館が建ち、都市部のように会館葬に移行していくのではないかとこの危惧感からであった。

そこで教区内の葬祭業者を含めての寺院と話し合いの結果、各家庭の事情を加味して、通夜までを自宅代わりにホールを使うことは可とするが、葬儀は従来通り寺院や引導場で行う事を確認した。近年は引導場を使うことも少なくなり、ほとんどがお寺で行われている。ただし、震災以降、ホールで葬

儀一切を行うことも、最近は見られるようになってきた。これは仮設住宅などの教区外檀信徒であると思う。

教区内寺院は、旧一カ村一カ寺が多く、葬儀は住職一人で勤めることが多い。副住職や徒弟がいる場合は二人だが、三人で勤める葬儀は三導師だと思われるぐらい希望である。

当地は限界集落と云ってもよいほど後継者が少なく、極論すれば、葬儀のたびごとに檀家が減っていく現状である。

私は寺で生まれ育った人間であり、五〇年前の葬儀も知っている。そのころは葬儀社を入れずに全てをまかっていた。その習わしをいくらかでも残したいと思っている。

例えば葬列だが、自宅から出発する場合は、一度葬列を組んでバスなどで移動し、再度山門から葬列、三匝の後に本堂に入る。葬列に必要な幡や天蓋などはお寺に用意している。青竹は檀家がそのたびに用意していたが、この頃は葬儀社が準備するようになった。

このように葬儀では行列を組むものだとされ、昔通りに親戚縁者近隣地域の人たちが会葬しての葬儀が行われている。

葬儀は、本家を中心にして受付や司会進行などの役割分担が行われている。

一方で近年は、地域外で亡くなり、葬列も参列者もない近親者だけの葬儀も増えてきており、従来の葬儀の形態が今後は変わっていくのではないかと感じている。



【新川】

当寺は人口四千人足らずの青森県よりの農村である秋田県藤里町にある。

当地には会館とかホールがなく、ほとんどが自宅かお寺で葬儀が行われており、習俗的には二〇年前も今も変わってはいない。しいて云えば、葬列が若干簡素化されたこと、僧侶の数が四人だったのが三人になり、現在は最低二人で勤められている。独僧の葬儀は難しいことを檀信徒にも理解して戴いている。

当地では、家族経営的葬儀社が一軒あるだけで、地域の人たちと連携して親身になって葬儀の補佐をしている。

また、市部ではご遺体が病院から会館に直行するようだが、当地では「病院から自宅に戻れないのは気の毒である。せめて二三日は自宅で過ごさせてあげたい」という気持ちが強くと、会館で葬儀一切が行われることには違和感を感じている。

現在、ビハラのの一員であるが、医療や福祉の観点からも葬儀については大いに関心を持っている。



【高橋】

都市部ほど、ご遺体は葬儀社によって病院から直接葬儀会館に搬送され、そこで枕経から納棺・通夜・授戒・葬儀・初七日法要・供養膳までの一切が行われるようになってきた。その傾向は次第に郡部に浸透しつつある。

その流れに対抗して、庄司師は「葬儀は墓地と直結するものであり、檀信徒の葬儀は菩提寺で行うべきである」として、寺院葬にこだわっている。大場師もまた、お寺での告別式を主張している。

過疎地や農村部にあつては、従来の葬儀にこだわりながらも、高齢化等の事情もあり、煩わしさもなく、一切を業者に任ずることが出来る都市部で行われているような葬儀が、楽でいいと感じているのではないかと思われる。

合理性や経済性だけで葬儀が論じられるならば、簡略化小規模化は進行し、葬儀は遺体処理の手段となりかねない。

次号では、将来を展望しつつ、今私たちがやらなければならない事を論じます。

研修会のご案内

■ 青少年教化指導者研修会

期 日：平成26年7月1日(火)～2日(水) (1泊2日)

会 場：メルパルク仙台

※青少年教化員並びに布教活動に従事している僧侶の方は特にご参加下さい。

■ 布教師特設検定会 (令命1等 令命2等)

期 日：平成26年7月2日(水)

会 場：メルパルク仙台

申 込：所定の用紙にご記入の上、宗務所経由で開催一月前までに教化部
布教課まで提出

■ 第43回 教化フォーラム

期 日：平成26年7月4日(金)
13時30分～15:30分
(管区寺族会講習会併修)

会 場：ホテルモントレ仙台

会 費：1,000円

「寺族通信教育レポートからみえる
寺院の現状と課題」

寺族通信教育 担当者：

中野重孝 老師、渡邊祥文 老師

深瀬俊路 老師、高橋哲秋 統監

■ 平成26年度 禅をきく会 (本庁主催)

期 日：平成26年10月17日(金) 13時開会～16時閉会 (予定)

会 場：八戸市公会堂 八戸市内丸1-1-1

電話：0178-44-7171 FAX：0178-44-7176

- ・第一部 椅子坐禅
- ・第二部 講師 福島県南相馬市・同慶寺住職 田中徳雲 老師
- ・第三部 コンサート サクソフォン演奏「北の四重奏」
- ・第四部 青森県内師範・詠範による梅花流詠讃歌登壇奉詠

■ 布教講習会

期 日：平成26年11月 (宮城県)

■ 管区婦人会研修会

期 日：平成26年7月17日～18日 (福島県)

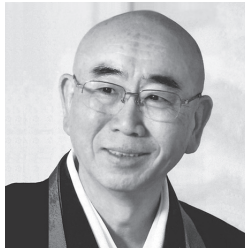
平成 26 年度 禅をきく会 仙台会場

会場：仙台市太白区文化センター 楽楽楽ホール 時間：14 時 30 分～16 時 30 分

入場料金：各回 500 円

第 139 回 平成 26 年
10 月 2 日(木)

「つながる“いのち”を
耕しあい 生かしあう」



特派布教師
長野県蕃松院住職
増田友厚 先生

第 136 回 平成 26 年
4 月 10 日(木)

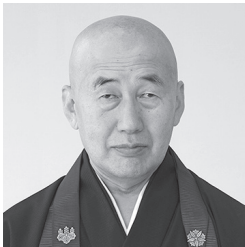
「暮らしのなかの禅」



作家
廣瀬裕子 先生

第 140 回 平成 26 年
12 月 4 日(木)

「分かち合う心」



特派布教師
北海道法光寺住職
佐野俊也 老師

第 137 回 平成 26 年
6 月 5 日(木)

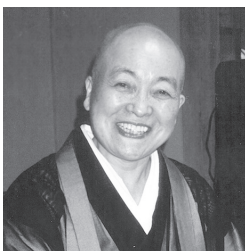
「峨山禅師の御姿に学ぶ」



神奈川県徳善寺住職
尾崎正善 老師

第 141 回 平成 27 年
2 月 5 日(木)

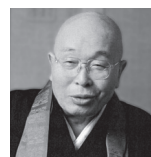
「今、ここから始めよう
～人生と円相で考える～」



愛知専門尼僧堂堂長
青山俊董 老師

第 138 回 平成 26 年
8 月 28 日(木)

対談 「日本人の心」



元 總持寺貫首・御誕生寺住職
板橋興宗 禪師

庭園デザイナー・神奈川県建功寺住職

枡野俊明 老師



平成二十五年度 後期行事報告

布教講習会

◎平成二十五年十月十六日～十七日

◎八戸市 グランドサンピア八戸

◎講演

東邦大学医学部名誉教授 有田秀穂 先生

「坐禅を脳科学する」

(※台風の影響により講師代理を統監が勤める)

書道家 濱崎道子 先生

「書の公益性と実技」

人権学習 報效寺住職 鳥谷部俊悦 老師

「わがままと自利―教義と人権をつなぐもの」

◎参加者 四十八名



第四十二回教化フォーラム

(東北管区寺族会 講習会 併修)

◎平成二十五年十一月一日(金)

◎ホテル モントレ仙台

◎講師

東京都 西照寺寺族 嗣永典子 先生

「一寺族による管見」

◎参加者 一一九名



清野千代子 会長



嗣永典子 先生

禅をきく会

◎平成二十五年十一月十三日

◎仙台市 けやきホール（東北福祉大学）

◎講 演

青森県 恐山院代 南 直哉 老師

「魂のゆくえ」

復興支援コンサート

歌手

古謝美佐子さん

演奏

佐原 一哉さん

スペシャルゲスト

夏川 りみさん

◎参加者 五百名



講演：南 直哉 老師



いす坐禅：高橋哲秋 統監



スペシャルゲスト：夏川りみ さん



復興支援コンサート：古謝美佐子さん、佐原一哉さん

「禅をきく会」に参加して

鹿又ひろ子

菩提寺でのご詠歌講習のうちに「禅をきく会」のお誘いがあり、夏川りみさんがゲストにお見えになるとのことと、聴講を希望いたしました。

当日は、灯りが落とされた厳かな中、いす坐禅で始まりました。短い時間ではありましたが、なんともいえないうちやかな気分になりました。

そして、恐山院代の南直哉老師の『魂のゆくえ』のお話しが始まり、老師のギャグ連発で笑いの絶えない講演でした。

「死者は居ないのではない。違う姿でそこにいる。親は死んでも親。生きている縁ではなく、亡くなった人と縁を結び直す。その人は死んでも生きても変わらない。我々の魂を育んでくれる。」と、心が震えました。

東日本大震災被災者の方々への、深く心に寄り添われたお言葉ひとつひとつに涙がこぼれてなりませんでした。

「自分勝手をやめて、大自然に身を委ねる」と講演を拝聴し強く思いましたのに、今は（？）。然れど、精進して日々暮らそうと考えております。

合掌

「私の生活改善計画」

～南相馬市・同慶寺さまを訪ねて～

教化活動企画委員 新川 泰 道

一、「自給自足」のためのソーラーパネル

ご住職の田中徳雲師は、以前から環境やエネルギーの問題に関心を寄せていたようですが、今回の震災および原発事故を経て、更にその思いを強くされたとのこと。別掲の通り、原発事故の影響でお寺は厳しい状況ではありますが、エネルギー問題においても先駆的な取り組みを実践されています。

送電線網がループになっ

る欧州と違って、日本では一方通行のクシ型になっており、逆方向に電気が流れることは今まで想定されていません。増え続ける太陽光発電に限界も囁かれ、電力会社は冷や冷やしているとの話も直接聞かれたそうです。売電目的のソーラーシステムは儲かるかも知れませんが、根本的な電力問題の解決にはならない仕組みです。電力会社や大規模発電施設に頼らず、もつとシンブルに自分のところで発電した電気を必要と分だけ使い、余ったら蓄電すると

いう仕組みを、と師は提言されます。

同慶寺さまでは、パネル二枚で発電した電気をフォークリフト用のリサイクルバッテリー二個に蓄電し、インバーター(変圧器)を介して使っています。今はお寺ではほとんど一人の生活になってしまったこともあり、照明もLEDでたいへん省エネなため、パソコンの使用なども含め今のところこれで十分とのこと。一般家庭の場合は、電気の消費量にもよりますが、大体パネル十枚にバッテリーが十個あれば何とかなりそうです。買電も売電もしない、エネルギーの自給自足、地産地消を目指すことが、真の意味で原発事故の反省を生かすことになるのではないのでしょうか(詳しくは、川内村から避難した師の友人が中心になり、全国展開を始めている「自エネ組」で検索)。

二、廃食用油を利用して車を走らせるディーゼルエンジン

ディーゼルエンジンは、もともと植物油で動かすために開発されたエンジンで、それを軽油で動



かすから環境に良くないと聞かれたそうです。

師の友人でバイオディーゼル改造のプロから譲り受けた車を、天ぷら屋さんなどから捨てる油をいただき濾過して使っています。お店でもお金をかけて処理していたので大変喜ばれているそうです。協力店の数も増え一週間で約二百リットルの廃油をいただいています。師は毎日かなりの距離を走りますが、燃費も軽油より若干良い感じでリッター十km(車種にもよる)前後だそうです。

捨てるもののリサイクルということと、また完全に廃食用油というのではなく、ボタン一つで軽油にも切り替えられる「併用」というスタンスが、今の私には合っていますとのこと(興味があれば師のアドレス tokun2525@me.comまで連絡ください)。

「技術は既にあります。あとは、何のために、何を、どう使うか?ではないでしょうか」との問いかけが、同慶寺さまが置かれた状況と重なり印象的でした。



東日本大震災支援募金缶協力者ご芳名

埼玉県

三〇	普門院
九〇	龍門寺
九四	大龍寺
九六	常福寺
一三八	心鏡寺
一六七	源昌院
一九〇	廣徳寺
三九三	泰蔵寺
一八五	勢國寺
二〇八	東泉寺
二九〇	弘道寺
一八二	観昌寺
三二〇	道音寺
六一九	広済寺
六五三	正壽寺
八二四	東昌寺
三四	願成寺
二九五	妙義寺
三〇	地福寺
三一	徳玄寺
七〇	長興寺
三八五	正麟寺
四〇八	瑞祥寺
四七	洞雲寺
四八	陽林寺
三	宝積寺
九	常泉寺
九八	保福寺
一四六	昌建寺
一六二	性源寺
二七五	松泉寺
三二四	

宮城県

三四五	大用寺
三五〇	久昌寺
四〇〇	定林寺
四一七	松音寺
一一二	松源寺
五六	大満寺
五七	満興寺
六七	同慶寺
八八	耕田寺
一〇四	永禪寺
一一五	円龍寺
一六九	香林寺
一七八	中興寺
三二七	観音寺
三三七	福田寺
四一五	観昌寺
四六五	松岩寺
六	永泉寺
一七	清水寺
二六	東慈寺
八一	円城寺
一六六	宝泉寺
一七〇	長慶寺
二〇二	観林寺
二九五	東海寺
三一八	青山寺
八	宝積院
五八	長円寺
五八	長円寺
六七	浮木寺
七四	長泉寺
九二	洞圓寺
九四	林泉寺
九六	正法寺
九九	澄月寺
一〇〇	光昌寺
一一〇	長昌寺
一一三	

福聚会

檀信徒一同

山形県

一一五	心月寺
一一七	泉龍寺
一四八	報効寺
一六六	高徳寺
一五四	應物寺
一八三	大乘寺
一八三	大乘寺
一八三	大乘寺
六七	正徳寺
八一	成安寺
一二二	金勝寺
一三〇	龍源寺
一三一	常林寺
一四一	法泉寺
二二二	澄江寺
二二九	清林寺
二五九	東光寺
三〇五	自性寺
三三二	玉林寺
三三二	常安寺
三六八	正福寺
四七〇	蓮台院
五〇三	梅林寺
六一二	円福寺
六四〇	松岩寺
六四四	峰鷲院
七二二	長測寺
七二二	永蓮寺
七三四	林秀寺
七三四	東光寺
七三七	龍雲寺
七四〇	長秀寺
八	長心寺
九	天龍寺
一七	光明寺
八一	補陀寺
八六	蔵立寺
九〇	瑞林寺
一一二	正乗寺
一一二	珠林寺

梅花講

護寺会

北海道

一六六	久昌寺
一七五	香最寺
一八〇	竜泉寺
二一二	靈仙寺
二四三	宝蔵寺
二五一	満勝寺
二六二	龍江寺
三〇八	実相寺
三二〇	仁叟寺
三二二	大圓寺
三五三	安養寺
二一六	高台寺
四八六	薬王寺
団体	
関東管区教化センター	
関東管区教化センター	大覚会
茨城県宗務所	
愛知県第一宗務所	
愛知県第一宗務所第二六教区	
愛知県第一宗務所 三〇教区	
愛知県第一宗務所 三二教区	
東海管区教化センター	
東海管区教化センター	参加者一同
近畿管区教化センター	
中国管区教化センター	
岡山県青年会	
中国管区 禅をきく会	参加者
四国管区教化センター	
九州管区教化センター	
北信越管区教化センター	
長野県第一宗務所第一二教区	
第二宗務所曹洞宗婦人会	
福島県 第八教区	
福島県 菅本部落寺 渡部道雄	
東北管区 教化センター	
東北管区 禅をきく会 参加者	
青森県 乗照寺	
山形県第一宗務所	
秋田県宗務所	
北海道管区教化センター	

※敬称を略し、宗務所・寺籍番号・団体の順で掲載させていただきました。

中間報告(平成二六年三月四日現在)
■合計額 四、七五九、七八四円

第4回

被災地のお寺は今(福島県)

〜原発避難の現状 2014〜

南相馬市 同慶寺 住職 田中 徳雲

南相馬市小高区おだかにある同慶寺

は、東京電力福島第一原子力発電所から北西におよそ十七kmに位置し、現在、避難指示解除準備区域に指定されています。日中の立ち入りは自由ですが、居住、宿泊はできません。原発からおよそ二十km北に位置する原町区以北にお住まいの檀信徒の方々を除いて、九割以上の檀信徒が避難生活をしています。

インフラ整備は少しずつ進んでいますが、ゴミの回収が不定期(出しておくと適当に来て回収していくようなやり方)です。実際は片付けたものをビニール袋に入れて外に出しておくと、それらをカラスや小動物が荒らし(彼らは人間が避難することによって畑に作物が作られなくなったために餌の確保が過酷になってきていると感じます)、帰る度に散らかされて困っています。

本堂は定期的に行われている「清掃結い」のお陰で清潔に保たれ、週末には法事も行われていま



本堂内にいたネズミ

す。しかし庫裏の一部は、避難初期時に放置状態であった雨漏りに加え、長期間人が住んでいないためにネズミやハクビシンの害がひどく、そうかといつて放っておくわけにもいかず、汚い表現で失礼しますが、まさに糞まみれになりながら何とか維持管理に努めています。

まだまだ手の届かないところもあります。焦らず出来るところからやっています。

檀信徒のみなさまは、当寺に限って見れば、南相馬市やお隣の相馬市に避難している方の多くは高齢者が中心です。子供がいる家

庭や、働き盛りの世代は、母子は比較的放射線量が低い地域に避難し、父親だけが南相馬で仕事をしている方が多いです。

今まで築いてきた地域のつながりは絶たれ、地元民は必死に繕っています。相変わらず先の見えない状態です。同居していた家族が、二カ所、三カ所と分かれて生活しており、その精神的苦痛は想像以上です。

最近では地元への帰還をあきらめ、避難先に住宅を建てたり、中古物件を求めたりする方も少なくない状態です。避難生活を続けながら、同時に小高(ふるさと)の家の維持管理もしていくのは大変なことです。離れたところに避難している人は特に大変です。とはいえ、三年使っていないとほとんど今の生活には不要なものとなってしまう、そうなるかとの家の中全体が不要なものなのかと考えてしまいます。

私の感覚ですが、清掃(片付け)に通っている方は全体の半分ぐ

らいます。そのうち、すぐにも還りたいと考えている方は一割二割いるでしょうか…。かなり厳しい状況です。

それでもお寺の行事や清掃活動には、本堂には入りきれないほど人が集まります(世話人という役割が機能しなくなってしまうので、みんな各家庭で寺に来るようになった結果です)し、作務でも共に汗を流します。みなさんの顔には一時的に笑顔が戻り、境内に笑い声が響きます。

遠方に移住を決意された方々も、参加は出来ずとも心は同じで、「申し訳ない」という思いをもっておられます。例え遠くに避難されていても、多くの場合、先祖のお墓は移さず守っていかれると思います。

しかし、兼務地(仲禅寺)のある双葉町、隣の大熊町の方は線量も高く、それすらも厳しいかもしれないと感じています。

私の家族は、現在いわき市に五次避難中です。子供は、九歳、七歳、五歳、二歳の四人です。

二歳の子は歩くのが達者になってきて、一緒に散歩するのが大



年末カレンダー発送作務

好きです。散歩の途中、土手に腰を下ろし、隣の土を叩いて、ここに座れと合図してきます。並んで座るのが好きなのです。並んで場所にもよりますが、周辺の土壌表面は低くても〇・二五μシーベルト以上はあります。そこを下から放射線で撃たれると思うと、親として子供の被曝に目をつむりながら生活することは、これもまた想像以上の精神的な苦痛があります。

また、私は週に四、五日は国道

六号線を北上し、旧警戒区域の中を通り抜け、片道一時間半の道程を寺まで通っています。途中の放射線量は車内最大で、二十五μシーベルトありますので、レントゲン室で使う鉛のブランケットを三枚、座席の下、背もたれ、そしてお袈裟のように左肩から心臓・生殖器までを守るようにかけています。

毎日のことなので、「ないよりはまし」的に考えています。

その他にも、遠方に避難されたお檀家さんの元を訪ねることも少なくはなく、一月平均の移動距離は約五km、移動に費やす時間も相当です。今の私にとって車はもう一つの小さなお寺のようになっています。

丸三年が経とうとしている今、改めて考えますと、現状は極めて厳しい状態であるとしか言いようがありません。原発避難は長期的になればなる程、傷は深まっただけです。それでなくても複雑な問題がさらに細分化し、見えにくく混沌とした状態になっています。でも、まだ頑張れます。私はあきらめません。



清掃結いに集まった皆さんと



法話 「帰依する」

教化センター布教師 奥山 雅 廣

仏は是れ

数年前より、小学生低学年を中心とした学童保育の子供たちとかかわっております。

大師なるが

女性指導員の先生ばかりなので、男性である私が時折足を運ぶ事に子供たちは何かしら新鮮な感じ方をする様子で、いろんな反応を示してくれます。求

故に帰依す

愛のしぐさで自分に気を引こうとしたり、仏事で一緒だった事を他の子供たちへアピールしたり、無理やりゲームに入れさせられる事もしばしばで、とにかく自分の欲求をとでも強くだします。場合によって涙の訴えに代わることもあります。まだあ

法は良薬なるが

どけない子供たちではあるものの、そこにはしっかりと自我の目覚めがあるようです。ある時、女子児童にこんな質問を投げかけられました。「ねえ先生、苦しみてなあに？」何気ない問いではあるものの、仏教にとってこれこそ大きなテーマであると思うのです。

故に帰依す

私たちが、他者との対比がで

僧は勝友なるが

道元禪師は、ともあれ誓いを立てることが肝要だと述べられます。

故に帰依す

修証義には、

修証義第十三節

「御仏を信じ、

「御仏が示された教えを
拠り所といたします」

「御仏を信じる仲間・友を
拠り所といたします」
とあります。

すなわち、大いなる大師であるお釈迦様に身も心も放ち、良薬である教えにて三毒を鎮め、仏道修行のためにすぐれた信心の仲間を敬う。そうして常に発心すること、仏の道を実践することです。

「帰依する」とは自分を勘定に入れない、私心のない清らかな心持で、信心ひとすじに成りきり、お釈迦様がおいでになった時も、お目にかかれなくなつた時代においても、変わらぬ心持で御仏にあこがれ一心に合掌し、頭を垂れお唱え申し上げる事です。

私たちの暮らしは日々便利さを更新し、指一本で世界のあらゆる情報を集めることさえ可能になりました。その半面自己主張が強くなり、さまざまな紛争が絶えません。そんな時代だからこそ仏教の智慧を学び、私たちは「苦悩」や「苦難」を受け入れながら帰依する生き方を実践してまいりましょう。

教化センター布教師紹介

平成 25 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日

冷岩寺住職
山形Ⅲ第一〇教区六二四番



今野悦次師

巢林寺住職
山形Ⅰ第一六教区一九五番



安野重幸師

高金寺住職
岩手第二教区四二番



大松博典師

常圓寺住職
福島第一教区一九番



阿部光裕師

松庵寺住職
秋田第九教区二六〇番



渡邊紫山師

泉高院住職
山形Ⅱ第二教区二八五番



山岸俊道師

東長寺住職
岩手第一二教区二九七番



東井千明師

長泉寺住職
福島第一二教区三二五番



西川一英師

常光院住職
山形Ⅱ第三教区三〇二番



奥山雅廣師

清涼寺副住職
青森第四教区三八番



柿崎宏隆師

鉤取寺住職
宮城第一教区八二番



都築幸三師

見龍寺住職
山形Ⅲ第一〇教区六二二番



池田好斉師

楊柳庵住職
山形Ⅰ第六教区七九番



木村尚徳師

功岳寺住職
宮城第一教区二七二番



関弘爾師

教化センター布教師の派遣につきましては、教化センター又は直接ご本人にご連絡ください。

支えあう！

被災地発信の情報をおよせ下さい

- ① 当教化センターのホームページを通じて被災地の情報を広く発信します。
- ② 復興に向けて支援を希望している方に情報を提供いたします。



<http://soto-tohoku.net/>

曹洞宗東北管区教化センター

曹洞宗東北

